

はじめに

本県では、温暖な気候や大消費地に近いという利点を生かして、野菜や果実のほか、牛乳、豚肉など生鮮食料を中心に多彩な農畜産物が生産され、県民に新鮮で安全・安心な食料が供給されています。

県産野菜の主力品目であるダイコンやキャベツでは、三浦半島地域を中心に、優良品種の選定や機械化などの取組により高品質化・省力化が進み、全国有数の露地野菜の産地を形成しています。また、戦前に石垣栽培から始まったイチゴでは、ビニールハウスの導入や品種改良などにより県内全域に栽培が普及し、現在ではイチゴ狩りや直売の取組が展開されています。果樹では、温暖な気候を活用し、ミカンやキウイフルーツなどが栽培され、近年は県育成カンキツ品種「湘南ゴールド」の生産が拡大し、販売も順調です。また、畜産では、消費者が近くにいる強みを生かして、アイスクリームの加工販売なども取り組まれています。

本県農業は、「品質の良い農畜産物をつくりたい。県民によろこんで食べてもらいたい。」という農業者の思いや、技能、知恵、記録、たゆまぬ努力が代々引き継がれ、築き上げられたものであり、優れた農業技術と創意工夫によって、発展してきました。

しかし、担い手の減少や高齢化、農業資材価格の高騰、荒廃農地の増加など、農業を取り巻く状況は依然として厳しく、また、経済のグローバル化やデジタル技術の進展、地球温暖化等による自然災害の頻発化や新型コロナウイルス感染症の感染拡大など社会の大きな変化の中にあり、働き方や価値観が多様化しています。

農業は、食料の安定供給に加え、良好な景観の形成や防災、県土の保全など、県民の安全・安心で豊かな生活に大きな役割を果たしています。本県農業が時代の変化に対応し、こうした役割を持続していくためには、担い手を確保し、県民の理解を得ながら、農業とその生産基盤である農地を守り、農業者や県民にとって「魅力ある農業」として、次世代にしっかりと引き継がれていくことが必要です。

こうしたことを踏まえ、本県農業の基本指針となる「かながわ農業活性化指針」を、このたび、改定しました。指針では、「農業の活性化による地産地消の推進—魅力ある農業を次世代につなぐ—」を基本目標としています。目標達成のため、「生産性の向上と担い手の育成・確保」、「新鮮で安全・安心な魅力ある農畜産物の利用拡大」、「環境に配慮した農業の推進と生産環境の保全」の3つの施策の方向を設定しました。これまで取り組んできた施策を継続しつつ、多様な担い手の育成・確保やスマート技術の導入、省エネ技術など脱炭素化につながる取組など各種施策を展開し、地産地消を推進していきます。